

報告



(社)日本技術士会北海道支部事業

「技術士制度 なぜ！なに！どうなのよ！／低価格入札とヒンカク」

2007年5月29日 札幌ガーデンパレス

技術士（上下水道／総合監理部門） 飯野将徳

まえがき

2007年春、新たに変身した日本技術士会北海道支部。その初頭を飾るかのように、百数十名を超える技術士が集まっていただき、第6回技術フォーラムが開催されました。テーマは「技術士制度 なぜ！なに！どうなのよ！」……。もう一つが「低価格入札とヒンカク」……。う～ん、今も昔も技術士の悩みは公私共に多いようで、スキャンダラスな予感いっぱいのフォーラムとなりました。

1. 支部長挨拶（大島支部長）

技術士法施行50周年を迎え、技術士会が発足した当時の経緯や、なぜ職業独占資格として認められにくいか、なぜ技術士会会員数が増加しないかなどのお話がありました。また、これらに対する取り組みとして、積極的な社会貢献、部門統合などの提言がなされていることをご紹介いただきました。

また、「今回の議論については、7月31日開催される本部主催フォーラムにおいて、北海道支部での意見として報告されます。活発な議論を期待しています。」と、元気に口火を切っていただきました。



写真－1 大島支部長

2. 特別課題その1

技術士法制定50周年記念事業

「技術士制度 なぜ！なに！どうなのよ！」

進行役：清水誠一技術士（建設）

清水技術士から、話題提供をしていただき、その後、活発な意見交換が行われました。

(1) 技術士制度について

1 技術士法50周年記念事業の概要

- ①趣旨
- ②事業推進方法
- ③推進のながれ
- 2 技術士法の歴史
- 3 技術士資格について

①技術士はPEか
CEか

②技術士資格と他の
資格との相違

③技術士と技能士の相違

④技術士のメリット

4 よく言われる技術士制度の問題点

- ①認知度が低い
- ②資格取得メリットがない
- ③特定技術分野への偏り
- ④社会的地位の低さ
- ⑤技術士補制度
- ⑥技術士の質
- ⑦グローバル化への対応
- ⑧専門職としての倫理（モラル責任）観の低さ



写真－2 清水氏



写真－3 講演風景

(2) 意見交換

「よく言われる技術士制度の問題を考えてみよう」

話題提供後に行われた意見交換では、少し過激な発言も……。

■認知度、社会的地位、資格メリット

全分野統一の問題なのか？

分野ごとの有効活用を考えてみては？

(意見)

- ・社会貢献ができることは幸せだが、他部門とのつながりについてはどうしていくか、もっと考えてみたい。
- ・一般の人にまで知られていなくても、その世界で知られていれば、あまり切ない思いをしなくても良いのでは。建設部門は、役所等で認められているので、社会的地位は確立していると思う。
- ・業界の人だけではなく、世間一般の人に知ってもらうことが本当の「認知」だと思う。そのために必要なのは、技術フォーラムの開催等、もっと積極的に社会の中に入っていくことである。
- ・技術士は社会の中では認知度はまったくない。人数を増やせば認知度があがるというのは間違い。今のままでは資格の意味がない。ボランティアを行って社会貢献といっているが、ボランティアでは食えないヨ。

■技術士の質、専門職倫理（モラル責任）

更新制度が必要ではないか？

(意見)

- ・業務独占の形となっていくには審議が必要だが、他部門も含め、統一して評価するのは難しい。
- ・CPD が大切。開催の曜日、時刻等を工夫することで継続教育がやりやすくなると思う。
- ・更新制度を作ることは良いことだが、制度に終わってしまうことを危惧している。技術士は目標や倫理観を社会にしっかりアピールすることが大切。更新制度には反対だ。
- ・発注者側も、技術士の地位を高めようと努力している。更新試験等は倫理等に中心をおくものにしたほうが良いと思う。

■技術士補制度

技術士補制度は必要か？

(意見)

- ・1次試験合格者という定義があって、更に士補登録が必要だろうか。
- ・APEC とのからみで必要なのでは。
- ・技術士の質等を上げるためには絶対必要だ
- ・技術士補の役割・有効活用をもっときちんと考えていくのなら制度はあっても良いと思う。

3. 特別課題その2

「低価格入札とヒンカク」

進行：

横田寛技術士（応用理学）

山上佳範技術士（水産）

村上新一技術士（建設・総合技術監理）

まず始めに、池田技術士より話題提供をいただき、引き続き3人の進行役を中心に議論のスタートとなりました。

(1) 講演「低価格入札と談合問題を考える」

札幌開発建設部 次長 池田憲二技術士

(参考資料)

1. 談合構造解消対策研究会報告書 H18.4

桐蔭横浜大学コンプライアンス研究センター

2. 郷原信郎 桐蔭横浜大学教授 H18

土木学会研究討論会(研-16)講演、同資料

①談合問題の歴史と現状

②談合構造の制度的、社会的分析

③研究会報告書の提言

1. 入札制度と請負契約の見直し

2. 入札・契約適正化のための補完的制度

3. 制裁・処罰の運用

4. 新たな枠組み創設のための官民合同機関設立

(意見)

・「談合」の果たしてきた役割を理解分析して、新たなシステムへの移行を目指す必要があるのでは。



写真-4 池田氏



写真-5 進行役の山上氏、横田氏、村上氏

(2) テーマ別討議1

「低価格入札はチャンスか？ピンチか？」

(討論)

Q：低価格入札の現状、何らかの改善が必要だと思われる方？……100%ですね。

改善が必要だという方、意見ををお願いします。

A1：技術を第一に考えていくことで入札競争がス

ムーズに行くと思う。

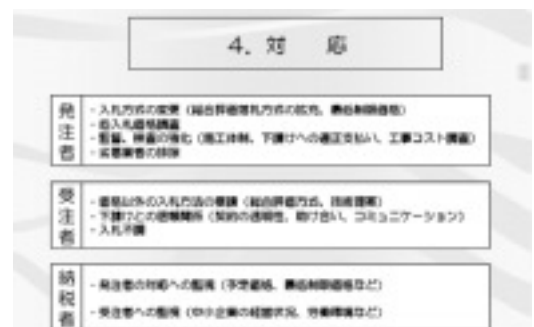
A2：「ピンチ」である。北海道は「崩壊状態」といっても過言ではない。

お金以外での評価が必要。技術力を上げること、会計検査できちんと説明できる人材を準備することなど。

A3：「チャンス」という考え方には2通りある。

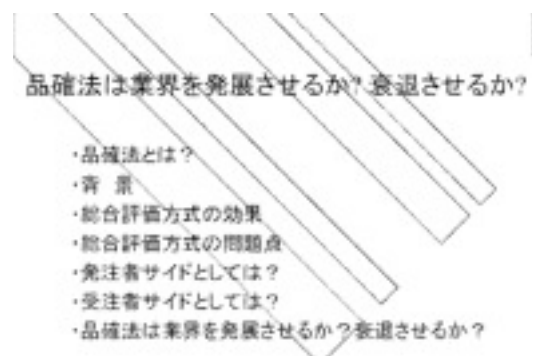
地域にあった評価の仕方を提案

A4：経営の良い会社にとってはもちろん「チャンス」でしょ。



(3) テーマ別討議2

「品確法は業界を発展させるか？ 衰退させるか？」



(討論)

- ・発注者側が適切な評価をすれば発展すると思う。評価の内容をきちんと公表すべきでは。
- ・得意な技術を持つ会社が少ない中で、受注を決めていくことは新たな談合を生むこととなり、衰退するのでは。
- ・品確法では上位の会社のみが生き残ってしまう。本当の意味での地域活性化につながるか不安。品確法が暴走しないように考えていきたい。
- ・過去の実績を大いに反映した評価をいただきたい。
- ・資質の少ない業者がいるために社会に混乱をきたしていることもあるのでは。

(4) テーマ別討議 3

「真の公共事業はどうあるべきか？」

(討論)

- ・競争原理と社会に対するサービスのどちらを優先させるかは、難しい。
- ・発注者、受注者ともにプロとしての信念を持ち、責任をもつことが技術者として正しいと思う。
- ・発注者、受注者等が対等なパートナーシップを持つことが品確法等の発展につながると思う。

最後に、進行役からまとめがあり、討論の終了となりました。

3. 建設業界の主張事例

1. 需要創出効果に頼る公共事業は勇気を持ってやめる
2. 投資効果による事業の順番付けをやめ、正常な国土構造に直すことを優先に
3. 社会資本は「余裕」を常態にもつ意図が必要 (慢性滞滞の道徳は非常識である！)
⇒これらを国民に理解させられるのは 「専門家」しかない (建コン協会が「朝日」へのKCCAより依頼)



写真－6 意見を述べる参加者たち

4 閉会の挨拶（能登前事業委員長）

最後に、所用で欠席された事業委員長である中野技術士の代わりに、能登技術士から御挨拶をいただき閉会となりました。

「本日は100名を超える参加者がありホッとしております。

最初のテーマについては、この後、東京での技術フォーラムに提案したいと思います。技術士法のよりよい発展のためには、もっと技術士会が力をつけていくことが必要で、そのためには入会率を引き上げていけるようご協力をお願いします。

後のテーマは議論が少ししかなかったなあ……。」

追記)

フォーラム終了後、恒例の交流会も開催されました。大きな会場では紳士だった技術士も、交流会では別人のように!? 活気ある時間を過ごすことができました。

次年度フォーラムは、2月開催を目指して準備することとなりそうです。たくさんの皆様のご参加をお待ちしています。